

“学”と“学习”一辞書に記述されない差異

保 坂 律 子

Study on the Difference Between “学” (xue) and “学习” (xuexi)

Ritsuko HOSAKA

要 旨

現代汉语中の“学”と“学习”都含有「学ぶ、勉強する」的意思，因此初学汉语的人常认为“学”与“学习”的意思完全一样，其实这两个动词的用法并不完全相同。例如：可以说“学生学习”，却不能说“学生学”。本论文的目的是指出这两个动词在语义与语用上的不同，以帮助初学者正确理解与应用这两个动词。

0. はじめに

「中国語を勉強する」の中国語訳には動詞に“学”と“学习”のどちらも用いることができ、“学汉语”、“学习汉语”と訳出する。試みに手元の中日辞典で“学”“学习”を引いてみると、小型辞書¹⁾、中・大型辞書²⁾を問わずともに第一義として「学ぶ、習う、勉強する」が挙げられている。多くの初級中国語教科書においては早い時期に「学ぶ、勉強する」という動詞を学ぶが、その際は“学汉语”（中国語を勉強する）、“学英语”（英語を勉強する）のように動詞＋目的語構造のフレーズで学ぶのが普通である。したがって学習者は“学”は“学习”と同義であると理解し、学習が進んでも教学の間では両者の用法の差異が指摘されることはない。しかし実際にはごく簡単な文型においても2つの動詞が置換

できないことある。

(1) 学生学习。(学生は勉強する)

(2) *学生学。(*学生は勉強する)

たとえば、(1)の“学习”を“学”に替えた(2)では特別な文脈でない限り不自然である。しかし、その理由は辞書の記述からは説明ができない。

本稿は、このように中国語教育において同義と理解されがちな“学”“学习”の差異を考察することを通じ、辞書の記述を中心とした理解では見落としがちな語構成、文中での働きを視野に入れた指導の重要性を示し教学の資とすることを目的とするものである。

1. 《现代汉语词典》での記述

まず、ここでは中国で最も規範的とされてい

る国語辞典（中辞典）《現代漢語詞典》³⁾での“学”、“学习”の記述を確認しておきたい。

【学】⁴⁾ ①動 学习：学习技术 勤工俭学 我跟着他学习了许多知识
②動 模范：他学习杜鹃叫
③学问：治学
④指学科：数学 物理学
⑤学校：小学 上学

【学习】⁵⁾ ①’从阅读，听讲，研究，实践中获得知识或技能：学习文化 学习先进经验
②’效法：学习他的为人

上記からは

“学”は動詞として①“学习”の意味のほか、②「真似る」意味を持ち、また名詞的用法として③学問、④学科、⑤学校の意味を持つ多義語であることがわかる。一方“学习”には動詞として①’、②’の意味を持つことが理解される。動詞としての、①“学”に“学习”①’の意味を持つこと、“学”には“学习”にはない名詞として3つの意味を持つこともわかる。また、“②学习”は見習うという意味を持つ。すなわち《現代漢語詞典》の記述に拠るなら“学”の持つ語義のうち①’“学习”のもつ「読んだり、聞いたり、研究、実践の中から知識や技能を得ること」において両者が同義であることになる。

2. “学”、“学习”の統語構造

ここでは、2つの動詞がどのような品詞と結びつき、どのような文法成分となるか、統語構造から違いを考察する。

2.1 +名詞目的語

“学”、“学习”はともに次のように名詞目的語⁷⁾をとることができる。

- (3) (学／学习)历史 (歴史を学ぶ)
- (4) (学／学习)高等数学 (高等数学を勉強

する)

(5) 我决定到中国去(学／学习)汉语(私は中国へ行って中国語を勉強することに決めた。

また目的語には名詞目的語だけではなく、“学”、“学习”ともに次の(6)のように動詞+目的語 (VO) 構造の動詞フレーズを目的語に取ることができる。

(6) (学／学习)开火车 (「車を運転する」を学_Vぶ→車_Oの運転を習う)

このとき、(6)で中国語“开火车”「車を運転する」の動詞フレーズを日本語に訳出する際には「車を運転するコト」となり名詞化されることがわかる。さらに、次のように“学”、“学习”によって構成される動詞+目的語の VO フレーズは、それ自身が文中で主語となることもできる。

(7) (学／学习)语言的还要(学／学习)一门专业(語学を学_Vぶのと同時に一つ専門を学_Vぶ必要がある。)

ここでも VO フレーズ“(学／学习)语言”(語学を勉強する)、“(学／学习)一门专业”(一つ専門を学_Vぶ)は日本語では「語学を勉強するコト」、「一つ専門を学_Vぶコト」のように名詞化されて訳出されてる。

2.2 +結果補語

「学_Vぶ、勉強する」という意味で用いられ補語を伴うとき、動詞には“学习”ではなく“学”が用いられることが多い。たとえば、結果補語を伴う場合には、

(8) 高能物理我可学_V不了。(高エネルギー物理学はどうしても理解しきれない)

(9) 上学期病了三个月，牛顿定律我没学_V着。(前期は3ヶ月病気になってしまい、ニュートンの法則はまだマスターしていない)

(10) 你的手艺学_V成了，可以自谋生路了。(お

まえの腕はもう一人前だ、自分で活路と開いて行ける)

次は可能補語の例である。

(11) 外语花的时间最多了,可总学不好。(外国語にかけた時間が一番多いというのに、いつもものにならない)

しかし、“学习”が全く用いられないかというわけではない。たとえば次のような例が見られる。

(12) 这么复杂的技术我学习不了(こんなに複雑な技術は私は覚えられない)

“学”でなく“学习”が用いられる理由を検討する際、ここでは補語が2音節であることに注目したい。単音節動詞“学”に後置され補語となる場合、補語が単音節語である場合には、単音節+単音節(1+1)でありVRフレーズは2音節となって安定がよい。しかし2音節動詞“学习”に単音節語が後置され補語となる場合には音節は2+1となり後ろが軽く不安定となり、落ち着かない。そのため一般に補語を伴う場合は“学”の使用が優勢となると考えられよう。しかし、(12)“~不了(bu liao)”のように補語が2音節である場合には、動詞に“学习”をとった場合であってもVRフレーズは2+2=4音節となり安定するため後置されても自然となる。補語をとる場合に“学”が優勢である理由を音節に求めれば、補語“到”がさらに名詞的成分を伴った次の場合には“学习”の使用が自由である点からも納得できる説明がつく。

(13) 他们一直(学/学习)到了三月底(彼らは3月末までずっと勉強した)

2.3 +方向補語

「学ぶ」「勉強する」という語義から“学”“学习”に後置される方向補語は、動作の移動方向を表す方向補語とは共起しにくく「~続ける、~始める」という派生義“~下去”、“~起来”

が多用される傾向にある。

(14) 这门课她坚持学下来了。(この授業を彼女はずっと学び続けている)

(15) 三年学下来,可以达到中专毕业生的水平。(3年間学び続けて専門学校卒業制のレベルに達することができる)

(16) 她学习起来很认真。(彼女は勉強を始めるととても真面目だ)

ここで注意すべきは動詞“学习”を用いた文では、特定の何かの科目を勉強するという意味は含意せず一般的な話題として「勉強を始めると」の意味に理解されることである。これに対し“学习”を“学”に替えると文脈から「具体的に何を」学ぶのか前提として聞き手と話し手の双方の了解がない場合には成立し難い。

(17) ??她学起来很认真。(彼女は学び始めるととても真面目だ)

(17) では双方に何を学ぶのかの共通の理解がなければ、聞き手は“学什么?”「何を?」という疑問を誘発する。

ところで、“学”や“学习”に動作の移動方向を表す方向補語が共起しにくいといっても、もちろん次の(18)のような動作方向を示す方向補語を伴う場合もある。

(18) 我的招数儿都让他学过去了(私の手(碁や将棋)はすべて彼に学ばれて行ってしまった)

3. 文成分からの考察

ここでは“学”、“学习”が文中で果たす機能、すなわち“学”、“学习”の担う文成分を探り両者の違いを考察する。

3.1 主語になるか

“学习”は文中において、単独で主語をなることができる。たとえば

(19) 学习开始了(勉強は始まった)

(20) 学习加紧了 (勉強には熱が入った)
のように、主語となり動詞を述語にとることができる。また主語として形容詞を述語にとることができる。

(21) 最近学习很紧张 (近頃勉強がとても忙しい)

(22) 学习落后 (勉強は遅れている)

これら (21)、(22) の“学习”の品詞は動詞でありながら日本語に訳出すると「勉強するコト、勉強」になる。動詞は本来動作や行為を表す語であるが、中国語においては動作・行為が叙述の対象となる場合には、動詞も直接主語になることができる。同様に形容詞は性質や状態を表すものだが、性質・状態が叙述の対象となる場合には直接主語になることができる。

(23) 虚心使人进步, 骄傲使人落后 (謙虚さは人を進歩させ、うぬぼれは人を退歩させる)

この点で中国語は日本語や英語と異なる⁸⁾。

しかし、“学”は (24) ~ (27) のように単独で主語となることはできず、単独で動詞や形容詞を述語にとることができない。

(24) *学开始了 (勉強は始まった)

(25) *学加紧了 (勉強には熱が入った)

(26) *最近学很紧张 (近頃勉強がとても忙しい)

(27) *学落后 (勉強は遅れている)

だが、上記の場合でも“学”が目的語をとり動詞目的語フレーズとして「~を学ぶコト」とすれば成立する⁹⁾。

(28) 学外语是重要的。(外国語を学ぶことは大切だ)

(29) 学语言的同时还要学一门专业。(語学を学ぶのと同時に一つ専門を学ぶ必要がある。)

3.2 述語となるか

動詞は文中では多くの場合述語として機能する。またそれは動詞の品詞としての第一の機能である。したがって動詞“学”、“学习”は、文中で自由に述語となると認識されがちであり、かつ実際に教学の場では後ろに動量詞やアスペクト助詞、補語などを伴った文例が多く表れる。たとえば次のようである。

(30) (学/学习) 了一下儿 (すこし勉強した)

(31) (学/学习) 过一段时间的会计 (一時期会計を勉強したことがある)

(30)、(31) はアスペクト助詞を伴う例で

(32) (学/学习) 完 (学び終えた)

(33) 这么复杂的技术我(学/学习) 不了 (このように複雑な技術を私はものにできない)

(32)、(33) は可能補語を伴った例である。

しかし、本稿の初めに提起したように、次の(34) の場合“学”は単独で述語になることができない。

(34) 学生(*学/学习)。(学生は勉強する)

この(34) は次のように動詞“学”が目的語を伴うと自由に成立する。

(35) 学生学(技术/课本/科学)。(学生は[技術/教科書/科学]を勉強する)

さらにこの場合“学”の目的語は受け手目的語であるという条件を満たす必要があり、そうでない場合、一見「勉強する、学ぶ」のように理解されても実際には“学”は「まねる」、「見習う」の意味用法での使用例である。

しかし、その場合であっても次の

(36) 学生学解放军不怕苦。(学生は解放軍の苦難を恐れないことをまねる)

は言っても、具体的に“学”の目的語にまねるものがない、

(37) ? 学生学解放军(? 学生は解放軍をまねる)

はおかしい。しかし、この(37) で動詞が“学

習」「見習う」の意味であるならば

(38) 学生学习解放军(学生は解放軍を見習う)

“解放军”は“学习”「見習う」の目的語足り得て成立することになる。

3.3 目的語となるか

では、動詞“学”、“学习”は文中で他の動詞の目的語となり得るだろうか。中国語では目的語は主語に対して言うものではなく動詞に対して言う。すなわち、動詞の後ろにおかれている場合には動詞であってもそれは目的語とみなされる。たとえば次の例では動詞が目的語になっている。

(39) 我喜欢游泳(彼は水泳が好きだ)

(40) 他爱唱歌(彼は歌を歌うのが好きだ)

平たく言えば動詞がさらに動詞の目的語となり得るのが中国語である。その場合もやはり動詞は日本語では「～するコト」のように名詞化されて訳出される。他の動詞の目的語となり得るか否かという点からなめると“学习”、“学”は異なる振る舞いをする。“学习”は単独で他の動詞の目的語となり得るが、“学”は単独で目的語になることはできない。

(41) 我开始(*学/学习)(私は学習を始める)

(42) 进行(*学/学习)(学習を進める)

(43) 我同意(*学/学习)(私は勉強することに同意する)

(44) 我打算(*学/学习)(私は勉強するつもりだ)

“学”が他の動詞の目的語になるには3.1, 3.2と同様、後ろにさらに目的語を伴ってVOフレーズを構成しなければならない。もちろん“学习”も目的語を伴ったVO構造をつくり他の動詞の目的語となる。

(45) 我开始(学/学习)汉语(私は中国語を

学び始めた)

(46) 进行(学/学习)汉语(中国語の学習を進める)

(47) 我同意(学/学习)外语(私は外国語を勉強することに同意する)

(48) 我打算(学/学习)外语(私は外国語を勉強するつもりだ)

(49) 他喜欢(学/学习)外语(彼は外国語の勉強がすきだ)

上で見たように一般に動詞が他の動詞の目的語になる、あるいは主語になるためには、日本語で「～スルこと」のように名詞性となる必要がある。動詞“学习”と“学”では“学习”はそれ自身「勉強するコト」の意味を有するのに対し、“学”は単独では如何なる場合も「学ぶコト」を表すことができず、目的語を取って「～を学ぶコト」と訳出されて初めて主語や目的語となり得るという大きな違いがある。

3.4 連用修飾語と“学”、“学习”(中心語となる場合)

ここでは文中で“学”、“学习”が修飾を受ける、すなわち中心語として連用修飾を受ける場合を考える。

文中で“学”、“学习”が2音節形容詞の修飾を受ける場合、形容詞が連用修飾のマーカである構造助詞“地”を伴った形の場合には問題なく成立する。

(50) 好好地(学/学习)(しっかり勉強する)

(51) 虚心地(学/学习)(謙虚に学ぶ)

(52) 刻苦地(学/学习)(苦勞して学ぶ)

しかし構造助詞を伴わない2音節形容詞の場合には、“学”はその修飾を受けにくい。つまり次のような形で被修飾語となった場合、中国語話者は不自然であると感じるという。

(53) ?好好学

(54) ?虚心学

(55) ?刻苦学

ところが上記の2音節形容詞であっても、発音の際に儿化される場合には許容される。

(53) '好好儿学

実際に上記(53)のように“好好学”と表記された場合、発音の際には“好好儿学”のように読まれることが多い。第2音節目は“儿”が加えられ儿化すると第一声に変調し、かつ長めに発音される。実際には hǎohǎor • (de) xué のように読まれ、“学”の前にわずかに「間」ができる。この「間」が音節のバランスを整える働きを担うと考えられる。なぜなら、“学”は次のように単音節語の連用修飾を受けることができるからである。例えば、親が子に向かって「早く勉強しろ」と言うような場合、次のように言うのは自然であるという¹⁰⁾。

(54) 快学! (早く勉強しなさい)

3.5 修飾語としての“学”、“学习”

3.4とは逆の場合、すなわち動詞“学”、“学习”が定語として名詞を連体修飾する場合“V 的 N”(V する N)について検討を加える。ここでは修飾を受ける名詞(N)の語義の面から2つの動詞の差異を考察したい。

ここでも“学习”が自由に連体修飾語となるが、“学”はそうではない。2つの動詞が定語たり得るかどうかで被修飾語の名詞をグループ分けすると“学”の修飾の受け易さという点で大きく3つに分けることができる。

a) “学”、“学习”とも成立する名詞グループ

(学/学习) 的内容 (学ぶ・学習する/内容)

(学/学习) 的科目 (学ぶ・学習する/科目)

(学/学习) 的机会 (学ぶ・学習する/機会)

(学/学习) 的范围 (学ぶ・学習する範囲)

このグループに分類される被修飾語の名詞は、具体的に「コレコレである、何何である」と答

えを特定して示すことが可能なものである。たとえばこれらのフレーズに続けて“~是…”(~は…である)という文を作ることが可能という共通項がある。

b) “学习”は問題なく成立するが“学”では言いにくい名詞グループ。

このグループに分類される被修飾語の名詞は“V 的 N”と言うとき、V に“学”を用いた場合には、必ず聞き手に「何を？」という疑問を誘発する名詞である。“学的 N”の成立には話し手、聞き手の双方に“学”の目的語が了解されていなければならない。前後の文脈から理解される“学”の後ろにある隠れた目的語の存在に支えられて成立するグループといえる。

(?学/学习) 的习惯 (学ぶ・学習する/習慣)

(?学/学习) 的兴趣 (学ぶ・学習する/興味)

(?学/学习) 的方法 (学ぶ・学習する/方法)

(?学/学习) 的积极性 (学ぶ・学習する積極性)

たとえば、小学校の保護者会で突然誰かが

(55) ?学习习惯 (学ぶ習慣)

といえ、前後の文脈から何が話題になっているのか双方に了解がなければ「何を学ぶ習慣？」と聞き返されるのが普通である。しかし小学生の英語学習が話題になっている場面であれば、“学”の目的語は“英語”であることが暗黙のうちに双方に了解され、“学(英語) 的兴趣”「(英語を) 学ぶ習慣」「学(英語) 的兴趣”(英語を) 学ぶ興味」「学(英語) 的方法」「(英語を) 学ぶ方法」と理解され、成立する。一方、V に“学习”を用いた場合には具体的な学ぶ「何か」が想定されるのではなく、広義の「学ぶ N」「学習する N」を表す。たとえば

(56) 学习的习惯 (学習する習慣)

といえ、一般的な「学習習慣」「勉強する習慣」の意味と理解され、特定の教科や内容の学習の意味はもたない。したがって聞き手に「何を？」

という問いを誘発しないのである。このbグループの名詞は「習慣」、「興味」、「方法」、「積極性」など「学ぶ、学習する」と比較的關係が深く抽象的な名詞である。

c) “学习”は問題なく成立するが“学”では成立しない名詞グループ。

(*学/学习) 的经验 (学ぶ・学習する/経験)

(*学/学习) 的道路 (学ぶ・学習する/道すじ)

(*学/学习) 的目的 (学ぶ・学習する/目的)

(*学/学习) 的提纲 (学ぶ・学習する/要点)

このグループは“学”の目的語の明示なくして成立しない。「～ヲ学ぶ」と限定されて初めて成立をみる名詞グループである。「経験」、「道すじ」、「目的」、「要点」などbグループと比べて広範な事柄と関係をもつ抽象名詞がならぶ。3つのグループの語義はa, b, cの順に抽象度が増していることが見て取れるが、抽象度が増すのに比例して“学”的Nは言い難くなる。

以上から“学”は具体的に学ぶ内容が想定できる場合には連体修飾語となり得るが、広義での「学ぶ」「学習する」意味で連体修飾語になることは難しいと言ってよい。これに対し、“学习”は一般的な「学ぶ」、「学習」するの意味として連体修飾語となることができ、抽象度の高い名詞グループをも修飾可能である。

4. まとめ

本論は、初級中国語で同義であると説明される動詞“学”と“学习”が、実際には「学生は勉強する」というごく簡単な表現において“学生学习”は言えても“*学生学”は言えないことから、両者を考察し差異を明らかにした。同時に教学の場では辞書の記述では見落としがちな語構成や文中での役割までを視野に入れて示すことが教学上必要であることを示した。

まず第1章で、中国で規範とされる国語辞典

(中中辞典)の《现代汉语词典》で“学”、“学习”がどのように記述されているかを確認した。その結果、“学”は多義語で“学习”が持たない動詞としての語義「まねる」、また形態素として学間、学科、学校を表す名詞としての語義を持ち、これらは“学习”には無い語義であることを確認し、“学习”と同義となるのは“学习”のもつ「読んだり、聞いたり、研究、実践の中から知識や技能を得ること」という意味で用いられる場合であることを示した。

第2章では統語構造から“学”、“学习”を考察した。まず2つの動詞はいずれも名詞の受け手目的語をとり、また動詞+目的語(VO)構造の動詞フレーズを目的語に取ることができること、また、“学”、“学习”が目的語を伴ったVO構造のフレーズ「コト」の主語となることができ、日本語に訳出される際VOは「～するコト」のように名詞化がなされること示した。ただし、目的語が名詞であっても受け手も受け手目的語でない場合には「学ぶ、勉強する」意味ではなく、「真似る」「見習う」という異なる語義での使用である。さらに、2つの動詞が補語を伴う場合、“学习”より“学”が多用されることを指摘し、その理由は結果補語、可能補語いずれの場合にも「音節の安定」で説明できることを明らかにした。

さらに、方向補語を伴う場合には派生義としての語義で使われることが多く、“学习”は一般的な意味で「勉強する、学ぶ」として使えるのに対し、具体的に学ぶ対象が了解されない場合には“学”は成立しにくいことを明らかにした。

第3章では“学”、“学习”が文中では果たす機能、文成分の観点から考察した。その結果“学习”は単独で主語となることができ、この場合「勉強すること」と一般的な意味での勉強、学習を表すこと、述語には動詞句、形容詞句もとることができることを示した。これに対し、“学”

はいかなる場合も単独で主語となることができないことを明らかにした。しかし、“学”は目的語を伴い動詞目的語 (VO) フレーズを構成し「～を学ぶこと」と学内容を特定できると成立することを示した。また、文中で述語となる場合にも、“学习”は目的語を伴うことは義務ではないのに対し、“学”は学ぶ対象が了解されていない場合に単独では用いられない。“学”、“学习”が文中で目的語になる場合にも同様で、“学习”が広義の「勉強すること」を表し単独で用いられるのに対し、“学”は目的語を伴って動詞目的語 (VO) フレーズを構成し「～を学ぶこと」となって初めて用いることができる。また、中心語として連用修飾を受ける場合、修飾語とは音節の安定が求められ、そのため“学”の使用には制限があることを明らかにした。“学”、“学习”が定語となる場合、“学习”は広義の「勉強、学習」の意味で用いられ「学习的 N」は「学習の N、勉強する N」と被修飾語の語義を問わないが、“学”では被修飾語の語義が抽象度を増すにつれ VO 構造をとらずに定語となるのが難しくなる。

以上から、“学”、“学习”は「～を学ぶ」という共通の語義を持つ一方で、“学习”は単独で広義に一般的に「勉強する、学習する、勉強、学習」の意味を表すことができるが、“学”では具体期に「学ぶコト」の想定が必要であることが明らかになった。また統語的には音節が安定することが求められ、語義上両者が使用可能な場合において“学”が選ばれるのは音節が関与的であることを示した。

本稿でみたように、同義とされる語においても語構成や文中での働き、音節などによる用法の違いがあることを教学の場で指導することは、外国語学習において有効である。

注

- 1) 『簡約現代中国語辞典』1986 光生館 香坂順一著
“学”「動詞：1 学ぶ、2 まねる」
“学习”「動詞：学習する、勉強する」
『標準中国語辞典 (第2版)』1996 白帝社 上野恵司著
“学”「動詞：1 学ぶ、2 まねる」
“学习”「動詞：学ぶ、学習する＝“学”」
『プログレッシブ中国語辞典』1997 小学館 武信彰編集代表
“学”「動詞：1 学ぶ・習う、2 まねをする」
“学习”「動詞：学習する、勉強する；見習う」
『中国語基本語辞典』2000 東方書店 奥水優監修
“学”「動詞：1 学ぶ、勉強する 2 まねる」
“学习”「動詞：学習する」
『はじめての中国語学習辞典』2002 朝日出版社 相原茂編著
“学”「動詞：1 学ぶ・習う、2 まねをする」
“学习”「動詞：1 学習する・習う」
- 2) 『現代中国語辞典』1982 光生館 香坂順一編著
“学”「動詞：1 学ぶ、2 まねる」
“学习”「動詞：学習する、勉強する」
『中日大辞典 (増訂第2版)』1987 大修館書店 愛知大学中日事典編纂処編
“学”「動詞：1 学習する 2 まねる・模倣する」
“学习”「動詞：学ぶ・見習う・学習する・勉強する」
『講談社中日辞典第二版』2002 講談社 相原茂編集
“学”「動詞：1 学ぶ、習う、学習する 2 まねをする」
“学习”「動詞：学ぶ、勉強する」

『中日事典(第2版)』2003 小学館 北京・商務印書館、小学館共同編集

“学”「1 学ぶ、習う、学習する 2 まねをする」

“学习”「学習(する)、勉強(する)、習う、学ぶ」

『東方中国語辞典』2004 東方書店 相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編

“学”「動詞：1 学ぶ、習う、学習する、勉強する 2 まねる」

“学习”「動詞：1 学習する、勉強する 2 (…に)学ぶ」

- 3) 《現代汉语词典(第5版)》2005 商务印书馆
中国社会科学院语言研究所词典编辑室

- 4) 訳：①動詞 “学习”(学習する)：技術を学ぶ、働きながら学ぶ 私は彼から多くの知識を学んだ ②動詞 まねをする：彼はホトトギスの鳴きまねをする ③学問：学問を修める ④学科：数学、物理学 ⑤学校：小学校、学校へ行く

- 5) 訳：①動詞 読んだり、聞いたり、研究、実践の中から知識や技能を得ること：文化を学ぶ、先進的な経験を学ぶ ②'見習う：彼の人となりを見習う

- 6) 例えば次のような例である。

我们要(学习/*学)别人的优点。(われわれは人の長所を見習うべきだ)

“学习”②は“学”と異なり、人の長所、手本とすべき好ましい点、見習うべき点に限ってしか言うことができない。しかし“学”は対象に似せてまねをすることを言うのみで、その是非は問わず、したがってその対象は動物であってもよく、欠点や癖であっても言うことができる。この点で大きくことなり両者を「まねる」の一言でくくることはできず、異なる語義としなければならない。

他学老师讲课的样子。(彼は先生が授業する様子をまねる)

学他的声音。(彼の声をまねる)

- 7) しかし目的語が名詞であっても、名詞が受け手目的語ではない、次のような場合では“学”、“学习”は「勉強する」という意味を表さない。

(学/学习) 上海 (上海に学ぶ)

「上海に学ぶ」と日本語では「学ぶ」という訳から「学習する、勉強する」の意と思いがちだが、ここは“学/学习上海”は「上海をまねる」「上海を見習う」という意味であり、《現代汉语词典》のそれぞれ動詞②に相当する用法である点に注意を必要とする。なぜなら“上海”が「読んだり、聞いたり、研究、実践の中から知識や技能を得ること」の直接の対象ではないからである。

- 8) 《現代汉语词典》では“学习”には品詞として名詞をたてておらず、また中国人学習者を対象とした《現代汉语学习词典》(上海外语教育出版社)でも名詞をたてていない。一方外国人学習者向けに編まれた《HSK 词用法详解》、《HSK 汉语水平考试词典》、《外国人学汉语工具书 1700对近义词用法对比》ではいずれも名詞としての項をたてて解説している。しかし中国語には名詞の文法的特徴機能を持つ動詞がある。それらは動詞と名詞の2つの品詞を兼ねるもの動詞と名詞の兼類とみなすのが一般的である。兼類の動詞、名詞はひとつは動作、行為を表し、ひとつは具体的事物を指すことができ、語義が密接に関係しているものをいい、ここでの“学习”のほか“报道”「報道する/「報道」：“说明”「説明する/説明”“计划”「計画する/計画”“建筑”「築く/建築物”“统计”「統計を取る/統計”

“证明”「証明する/証明”“分析”「分析する/

分析」など多く存在する。

- 9) “学”は単語の構成成分、すなわち形態素として「学校」「学問」という意味を持つときに“大学”、“物理学”のように単語中で名詞性成分の意味を果たすが、これは動詞“学”の語義と密接な関係は認められず動詞と名詞の兼類ではない。同音ではあるが異義である。したがって“学”はいくつかの異なる意味をもつ多義語である。
- 10) (54)は命令文であり、前提として双方に何を“学”するのか目的語が具体的に理解されているはずであるが、さらに単音節形容詞が“学”を直接修飾していることに注目したい。この文の成立を支えている理由は、単音節“快”+単音節“学”では音節としてのバランスが整っているからである。

参考文献

- 《现代汉语学习词典》1995 上海外语教育出版社
《HSK 汉语水平考试词典》2000 华东师范大学出版社 邵敬敏主编
《现代汉语规范字典》1998 语文出版社 首席顾问 吕叔湘 主编李行健
《动词用法词典》1987 上海辞书出版社 孟琮等编
《现代汉语实词搭配词典》1992 商务印书馆 张寿康 林杏光主编
《1700对近义词用法对比》2005 北京语言大学出版社
《HSK 汉语8000词词典》2000 北京语言文化大学出版社 北京语言文化大学汉语水平考试中心编